

## 自治体と連携した検査モデルの構築と効果分析に関する研究

### 〈インターネットを活用した性感染症啓発の検討〉

研究分担者 今村顕史 (がん・感染症センター都立駒込病院)

研究協力者 佐野貴子 (神奈川県衛生研究所)

要友紀子、畑野とまと、宮階真紀、宮田りりい (SWASH)

堅多敦子 (東京都立駒込病院)

#### 研究要旨

近年、国内では、性感染症が増加しており、特に梅毒については、女性は 20 歳代、男性は 30-50 歳代を中心に急増しており、大きな問題となっている。すでに国や自治体による各種啓発ポスターやパンフレット、保健所等で HIV 検査と合わせた性感染症の無料・匿名の検査の実施など、予防啓発や受検勧奨の対策は行われている。

しかし、特に、性感染症の正しい知識や情報が届いていない若年層や、性感染症り患のハイリスク層ではあるが、情報にスムーズにアクセスできる環境にない女性のセックスワーカー (SW) に対して、予防行動をとり、検査を受検するような意識を醸成していくことが重要であると考えられる。

本研究では、性感染症に関する啓発を通じて、若年層や女性の SW に対して、性感染症の不安解消、情報提供、注意喚起・受検勧奨を進めるとともに、HIV を含めた性感染症に関する情報を効果的に伝達できる手法を検討する。

具体的には、若年層等が日頃からアクセスしやすいインターネット環境を利用することとし、当研究班の分担研究である「インターネットサイトによる HIV 検査情報の発信と活用に関する研究」で構築した「HIV 検査・相談マップ」のサイトに性感染症のページを作成するとともに、特に流行している梅毒についてわかりやすく解説した動画を作成し発信する。さらに、これまでなかった SW 向けに性感染症に関する情報をはじめとして健康管理情報などを網羅するポータルサイトの作成や、支援活動を行っている団体の WEB サイトを見やすく再構築し、SW が認知し、円滑に性感染症情報等にアクセスしやすい啓発手段を講じる。また、SW 向けに SW 界のインフルエンサーである出演者へのインタビューを主にした梅毒啓発動画を作成し発信するなど、多様な方策を検討した。

これらの啓発については、サイトのアクセス数や動画の視聴数等の解析による評価を行う。そして、今後、HIV/AIDS に関する情報や、様々な性感染症の発生動向等を、迅速かつ適切に伝達できる手法の確立を目指す。

#### A. 研究目的

近年、国内では、性感染症が増加しており、特に梅毒については、女性は 20 歳代、男性は 30-50 歳代を中心に急増しており、大きな問題となっている。すでに国や自治体による各種啓発ポスターやパンフレット、保健所等で HIV 検査と合わせた性感染症の無料・匿名の検査の実施など、

予防啓発や受検勧奨の対策は行われている。

しかし、特に、性感染症の正しい知識や情報が届いていない若年層や、性感染症り患のハイリスク層ではあるが、情報にスムーズにアクセスできる環境にない女性のセックスワーカー (SW) に対して、予防行動をとり、検査を受検するような意識を醸成していくことが重要であると考えられる。

本研究では、性感染症に関する啓発を通じて、若年層や女性の SW に対して、性感染症の不安解消、情報提供、注意喚起・受検勧奨を進めるとともに、HIV を含めた性感染症に関する情報を効果的に伝達できる手法を検討する。

そして、今後、HIV/AIDS に関する情報や、様々な性感染症の発生動向等を、迅速かつ適切に伝達できる手法の確立を目指す。

## B. 研究方法

### 1. 若年層向けの啓発

#### ①性感染症の特設ページ

当研究班の分担研究である「インターネットサイトによる HIV 検査情報の発信と活用に関する研究」で構築した「HIV 検査・相談マップ」のサイト内に専用ページを作成し、スクロールにて情報を表示し、性感染症の詳細については、外部サイトへ誘導する。

#### ②梅毒啓発動画

前後編各約 5 分の動画で、若い世代に親和性の高い「You Tuber」スタイルを模したアニメーションで梅毒に関する話題を発信する。

本編では実写の医師（本研究代表者）との対話スタイルで視聴者に情報提供・注意喚起・受検勧奨を発信する。

### 2. SW 向けの啓発

SW 向けの啓発にあたっては、支援団体と本研究班と連携して対応した。

#### ①ポータルサイト・スマートフォンシステム

セックスワークに従事する多くの人々が利用できるポータルサイトを構築する。対象者に性感染症などの情報が的確に届くように、多くの有用な情報と合わせて発信できるようにする。

また、アンケート機能を付加し、多くの SW がアクセスすることで、アンケート調査などがよりスムーズにできると考えられる。

#### ②支援団体の WEB サイト再構築

SW への支援活動を行っている団体の現在の団体 WEB サイトを見やすく・使いやすく、

アクセスを円滑にし、SW が性感染症に関する情報をはじめとする各種情報提供を得やすくするため、再構築する。

#### ③梅毒啓発動画

梅毒について、わかりやすく、自分事として認識してもらえる内容で動画を制作する。

SNS 用約 1 分 ホームページ用約 8 分で、全体をセックスワーカー 7 人への個別インタビューで構成する。最後に各出演者から、現役 SW に向けて、性感染症予防のためのメッセージを発信する。

(倫理面への配慮)

本研究においては、個人情報等、倫理に関わる研究内容はなし。

## C. 研究結果

### 1. 若年層向けの啓発

#### ①性感染症の特設ページ：

「これって性感染症？」の作成

インターネット等では、疾患別に説明された情報が多いが、まず気になるのは症状と思われるので、症状別に分類し、どのような性感染症があるかを記載、性感染症にかかる疑問点など Q&A を充実し、わかりやすく解説した。

性感染症の詳細については、東京都健康安全研究センターなどの外部サイトへ誘導した。



<https://www.hivkensa.com/sti/>

## ②梅毒啓発動画

作品時間 前後編に分け各5分程度

作品内容

- ・若い世代に親和性の高い「YouTuber」スタイルを模したアニメーションで梅毒に関する話題を「メディチューバー」が発信
- ・導入部でメディチューバーが梅毒の概要や友人等の経験を説明
- ・本編で実写の医師(本研究代表者)が登場し、対話スタイルで、視聴者世代に注意喚起
- ・視聴者世代の疑問・不安を医師に問いかね、医師と、メディチューバーで受け答えをする
- ・まとめは、本編のまとめと、医師から視聴者へのメッセージを発信

「今、梅毒が流行しています。梅毒は症状がない場合もあり、治療しないまま放置すると気づかないうちに進行します。「もしかして?」と思ったときは、まずは検査を受けることをお勧めします。」

- ・最後にメディチューバーとしてのクロージングメッセージを発信  
「自分自身のことだから、しっかり知って、自分の体は自分で守ろうね!」

## 2. SW 向けの啓発

### ①ポータルサイト・スマートフォンシステム

#### ○ポータルサイト「赤い傘」

- ・ニュース: イベント、最新情報案内等
- ・リソース: セックスワーカー向け性感染症啓発 教育・手引き資料データ  
ビジュアル画像、動画等
- ・ブログ: SW からの投稿、イベント報告、その他情報発信
- ・リンク: 検査・相談・支援情報等
- ・アンケート等



#### ○スマートフォンシステム「ふーのーと」

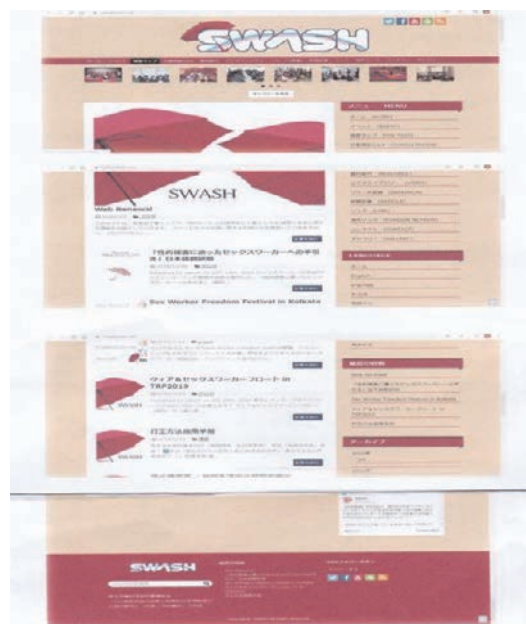
SW が仕事をするにあたって、便利な機能を持ったシステムで、性感染症に関する情報をダイレクトに届けるツール

- ・カレンダー機能、・日誌機能(収入、メモ等)
- ・顧客管理・予約管理、店舗設定
- ・性感染症に関する情報や健康情報 等

### ②支援団体の WEB サイト再構築「SWASH」

サイト内容

- ・これまでの活動記録
- ・イベント、最新情報案内等
- ・SW 向け性感染症啓発・手引き資料データ
- ・ビジュアル画像、動画、調査報告書
- ・外国人 SW 向け言語リソース
- ・イベント報告、活動レポート、その他情報
- ・問い合わせ、・検査・相談・支援情報等



<https://swashweb.net/>

### ③梅毒啓発動画

- ・作品時間： SNS 用約 1 分、HP 用約 8 分
- ・各分野の SW（7 人）各人へのインタビューで構成する。
- ・内容： 梅毒と聞いてどう思うか、セックスワーク時に性感染症予防のため気を付けていること、性感染症検査の有無、自分の性感染症り患体験談、同僚や友人の性感染症に関するエピソード等（各約 1 分）  
最後に出演者から、現役 SW に対しての性感染症予防のためのメッセージ（各 10 秒）
- ・出演者には SW 業界でのインフルエンサーとして、今後現役 SW に対して、本動画も含めて、各種の情報発信をしていただく。

### D. 考察

近年、国内では、性感染症が増加しており、特に梅毒については、女性は 20 歳代、男性は 30-50 歳代を中心に急増しており、大きな問題となっている。すでに国や自治体による各種啓発ポスターやパンフレット、保健所等で HIV 検査と合わせた性感染症の無料・匿名の検査の実施など、予防啓発や受検勧奨の対策は行われている。

しかし、特に、性感染症の正しい知識や情報が届いていない若年層や、性感染症り患のハイリスク層ではあるが、情報にスムーズにアクセスできる環境にない女性の SW に対して、予防行動をとり、検査を受検するような意識を醸成していくことが重要である。

本研究では、性感染症に関する啓発を通じて、若年層や女性の SW に対して、性感染症の不安解消、情報提供、注意喚起・受検勧奨を進めるとともに、HIV を含めた性感染症に関する情報を効果的に伝達できる手法を検討する。

具体的には、日頃からアクセスしやすいインターネット環境を利用することとし、「HIV 検査・相談マップ」のサイトに性感染症のページを作成するとともに、特に流行している梅毒についてわかりやすく解説した動画を作成し発信する。さらに、これまでなかった SW 向けに性感染症に関

する情報をはじめとして健康管理情報などを網羅するポータルサイトの作成や、支援活動を行っている団体の WEB サイトを見やすく再構築し、SW が認知し、円滑に性感染症情報等にアクセスしやすい啓発手段を講じる。また、SW 向けに SW 業界のインフルエンサーである 7 名へのインタビューを主にした梅毒啓発動画を作成し発信するなど、多くの人が認知し、理解しやすい多様な方策を検討した。

これらの啓発については、今後、サイトのアクセス数や動画の視聴数等の解析による評価を行う。そして、今後、HIV/AIDS に関する情報や、様々な性感染症の発生動向等を、迅速かつ適切に伝達できる手法の確立を目指す。

### E. 結論

本研究では、正しい知識・情報や受検勧奨について十分に届いていなかった若年層、女性の SW 等への啓発方法を検討し、多くの人が認知し、理解しやすい多様な対策を講じた。課題となる対象者には、ひとつの方法だけでは HIV・性感染症の受検勧奨が完結することはない。今後、サイトのアクセス数や動画の視聴数等の解析による評価を行うとともに、HIV/AIDS や様々な性感染症の情報等を、迅速かつ適切に伝達できる手法の確立を目指していく。

### F. 健康危険情報

特になし

### G. 研究発表

1. 論文発表
2. 学会発表  
なし

### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他  
なし